



## 北アフリカ地域ニュース

### チュニジア：テロ・治安情勢

(4月19日付「ル・タン」紙)

1. 昨年9月にアル・カーイダ No.2 のザワーヒリから GSPC がアル・カーイダに合流したとの声明が出された。マグレブ諸国のテロ組織を纏め、「マグレブ諸国のアル・カーイダ(以下 AQMI)」と改名してから、アルジェリアやモロッコでのテロが頻発している。AQMI は戦略の変化を示すかのように、活動の舞台を都市部に移し、アルジェでは自爆テロにより一般市民や首相府、或いは米・露などの外国企業を、カサブランカでは米公館を標的とするテロを敢行した。加えて、インターネットを利用した爆発物の製造や殉死者の遺言を DVD などに残す手法も、アル・カーイダのそれと同様になった。
2. 一方、2002年のジェルバ島でのテロ事件以後、チュニジアでのテロはなかったが、昨年12月下旬から本年1月初めにかけて、チュニス南部でアルジェリアから入った武装グループと治安部隊との銃撃戦で12名が死亡、15名が逮捕される事件が発生した。ここ5年間の小康状態の後で発生した本事件は、チュニジアではテロがないと安心していただけチュニジア人にショックを与えた。公式な数字はないが、本年になって国内各地で百数十人のイスラム過激派が逮捕されている。
3. モロッコやアルジェリアに対し、チュニジアでは1月以降テロは発生していない。テロの脅威は去り、ジハーディストがいなくなったのか？ 或いは、現在は嵐の前の静けさなのか？ いずれにせよ、チュニジア当局が他のマグレブの当局に比べて有効に取締りを展開していることにはならない。チュニジアは、他のマグレブ諸国と同様に新卒者の失業率も高く、解決策も見出されていない。テロが起きていないのは、比較的社会や経済が発展しており、ジハーディストの数が少ないからに他ならない。
4. しかし、ジハーディストになるには他にも理由がある。例えば、チュニジアの若者の多くはアラブ人やイスラム教徒が置かれている境遇に共感を覚えており、その中には、ボスニア、アフガン、イラク等でジハードに加わり、一線を越えた者もいる。従って、過激派が完全にはなくならず、他の国と同様にチュニジアにもテロの脅威は存在していると言える。
5. チュニジアのテロは全て「輸入」されている。チュニジア人ジハーディストは特にヨーロッパでリクルートされている。2006年の欧州テロ・レポートでは、ヨーロッパはイスラム・テロリストのリクルート・資金調達の場合とされ、逮捕された257名のテロリストの殆どがマグレブ出身者であるとしている。
6. チュニジア人ジハーディストが爆発物や武器取り扱いの訓練を受けるのはアルジェリアである。チュニジアは、国土が狭く起伏がないため、これまではテロ・キャンプを作ったグループはいなかった。チュニジア人ジハーディストによるテロ計画を完全に払拭することは出来ないが、チュニジア国内では行動を起こせる範囲は狭いと言えよう。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799